



西遊全傳

二編

二



2500
40-12



門へ遠く
2500
40-12

皇朝戰略編

筆張園陵宮田生著

全部十五卷

前映八冊
後映七冊

此書者遠く天慶ノ始平ノ將門ノ亂ヲ東國ニ傳ヒシ始道ノ業
末島原ノ賊徒ノ西海ニ殊滅セラレシニ至迄前後凡七卷自示
ノ間名將良主英雄豪傑ノ奇戰妙畧跡法則トナルハ
ヲ數多ノ史乘ヨリ撰ヒ出シ此學ノ用ニ備ヘタル者ニテ實ニ
兵家ノ龜鑑タルト云ヘシ名將ノ勝ヲ製スル術ノ覺リ又國
家興廢ノ由ル所以ヲ知ルハキ者ハ此書ニ如ク無レト云
大阪書肆 心齋橋通北久室寺町 河内屋源七郎梓

池清



繪本西遊記二編卷之二

池清

外道迷真性

元神助本心

斯ノ銀角ハ八戒を曳セシヨリ裡へ回キテ金角小斯ク報ルル金
角画図成用カク引合せ大ナル悦ビ果然他猪八戒アリ早く後辺乃池
中小浸一兩日成過シ下酒ハカトシ小妖小余一々八戒を曳テ
後辺乃池水小浸シヌ叔銀角小向ハ汝既ハ八戒を捉ルル唐僧必
シ追カホアハ再行ク山を巡リ唐僧小遇ハ捉キル只の孫行者を
神通廣大ナリト皮裡々ハ歌ハ難ク宜ク謀をカク擲ハセヨ
銀角唯々々々再ハ小怪若于成率ハ高山小登テ四方成窺ハ居
ル此阿三藏孫行者小向ハ八戒去ク吾阿トク今ハ飯トキキク是
如何ナル故ト同行者ガ曰那彭子ト途中小腫ト居ハ小ヤ師父先

西遊記二編卷之二

馬うまふ棄あきらめ人我ひとが二月ふたつき小行こぎ尋たずねのつ乙つと。三藏さんざう然しかりて馬うまふ騎こ師徒しと一いつ奔ふ
小山中こやまなか尋たずね入い銀角山ぎんかくやま上うへより是こゝを刀やいば々々果は然しか唐僧たうそうきりりと悦よろこび小
怪おそふ命いのち一いつ曰いわく吾われ今いま変化へんげ々々唐僧たうそう亦また三人さんにんを捉とらへり汝なんぢ亦また茲こゝ小有こゝろくす
よとく忽たちち年とし老らう々々道士たうしと變へんじじ跌ふ々々傷きず々々体ていををりり足あしより血ちを
流ながし草くさ乃すなはち上うへ倒たふ伏ふ々々命いのちを救すくひしとぞ叫こゑび居ゐりり三藏さんざう此こゝ声こゑををり
二人ふたり小向こむかひかる山中やまなか何人なんにん々々如此かく呼よびぬるやと問と同おな小妖こよう怪かい草中くさなかより爬は
出でるもあふりり々々礼らい成じやう々々守まもる三藏さんざう是こゝ成じやう々々小年ことし老らう々々道士たうしななきき
連つ忙ま馬うまより下したに挽ひ起あげしととと銀角ぎんかく故こ意いと声こゑ然しか揚あげ疼いた痛いた
早はやく手て放はなちまとと三藏さんざう心こゝろけををりり手て放はなちまとと々々刀やいば々々が
他たが足あし折をり損そんじじ血ち乃すなはち流ながる々々淋あ津りん々々ををりり孩わが々々其その故ゆゑ成じやう回かい銀角ぎんかく
白しろ々々吾われ此こゝ山やま乃すなはち西にし々々清幽せいゆう觀くわんとと小觀せうくわん中なか乃すなはち道士たうし小向こむかひか前まへ日ひ徒と弟ていと

小山乃南せしや乃南な方かた乃施せ主しゆの家けふ赴むかひひ襪わ星せい散さん福ふくををりり々々不ふ計けい
猛虎まうこ小遇こあひ吾われ徒と弟てい八は皆みな他た小吃こじやう々々吾われ八は命いのち成じやう捨す逃たう走そうりり小忽こしやちち石
小跌こてつ死し倒たふ々々如此かく足あし成じやう傷きず々々觀くわん中なかへへ飯い々々再また度たび虎こゝろ出できき々々逃たる
々々能あハハ今いま幸さい々々師し又またの来き臨りん小遇こあひ願ねん々々吾われ杖しやう々々送おく里り飯い々々孫そん行ぎやう者しや小向
甚お々々憐あはれれ先生せんせい患うれ々々々々々々吾われ杖しやう々々送おく里り飯い々々孫そん行ぎやう者しや小向
ハ汝なんぢ此こゝ道士たうしををりり駁ま々々那な觀くわん中なかへへ送おくり行ぎやう々々命いのち々々悟ご空くうハ早はやく道士たうしハ
妖よう怪かいなりと知し一いつ棍こん小步こほ殺ころささ々々々々又また以も前まへ乃すなはち師し又また小責せららささ
んん々々ををりり怕おそ々々狂くる忽たち手て成じやう下したささ守まもる命いのち小意こゝろ々々道士たうし成じやう駁ま行ぎやう々々三五里さんごり乃
道だう成じやう過か々々小三藏さんざう悟ご淨じやうハ先まへ小步こほ々々山やま乃すなはち凹くぼ々々如ごとく下した々々稍しか形かたゆゆえ
がが須す波な今いま々々妖よう怪かいををりり殺ころささ々々々々又また小妖こよう怪かいハ早はやく是こゝををりり
元もと来きたり銀角ぎんかく一いつ個この法術ほふじゆありり々々天下てんか乃すなはち山やまををりり遣つかへへ自みづか在ざいををりり々々行ぎやう者しや々々

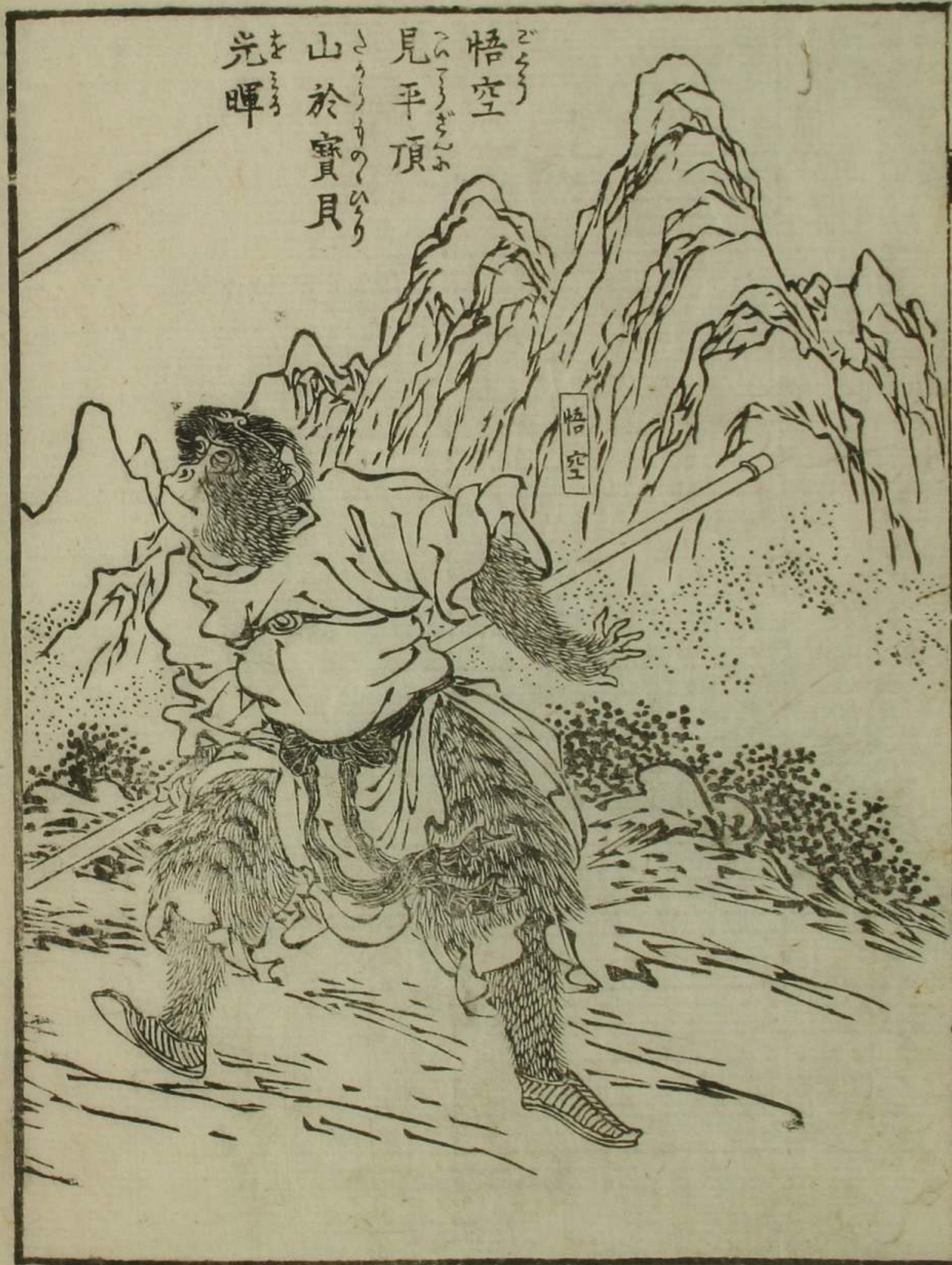
西遊記二編卷之二

背せうり上うへ小こ在ある。檢けん訣けつ念ねん咒じゆを介まへへ忽たちち一いち坐ざの須しよ弥み山さんをとりて孫そん行ぎやう者者上うへ小こ落おちしる。行ぎやう者者早はやく身みを傾かたけて避ひ避ひしる。左ひだりの肩かた小こ受う留りゆう冷れい笑ぎやうて曰いふ。賊ぞく怪かい何なにぞ重ちゆう身しんの法ぽうを使つかひて吾われを厭いとふともや。銀ぎん角かく他たを厭いと損そん下くだりし。成なり々々又また念ねん咒じゆ一いち坐ざの我が眉まゆ山さんを空そら中ちゆうより落おちしる。行ぎやう者者是こゝに成なりぬ。閃せん外がわより右みぎの肩かた小こ受う留りゆう兩りゆう坐ざの大山だいざんを肩かたの上うへ小こおたれたれながら走はしると星ほしの光ひかりがままま三さん藏ざう小こ追お付つけんとす。銀ぎん角かく以もつて外がわ小こ駑ぐ馬ばた又また忙いそがいそがいそ念ねん咒じゆ一いち坐ざの坐ざる泰山を空そら中ちゆうより行ぎやう者者が頭かぶの上うへ落おちしる。是こゝに依よるとも神通じんつう廣大くわいだいの行ぎやう者者も泰山たいざん壓おさ頂ていの法ぽう小こ遭あ三さん坐ざの神かみ山さん小こ壓おさきし。終つひ小この處ところ一いち壓おさ倒たおされて。七なな竅けつより血ちを流ながして敢あく働はたらかれど。銀ぎん角かく仕しをなぬと急いそ小こ三さん藏ざうを追お蒐さう雲うん中ちゆうより手て成なり伸のびしる。人ひと馬うまもも搔か抓つかると悟ご淨じやうをもとり小こ捉と終つひ一いち陣ちんの風かぜを幾いくとも蓮れん花げ洞どうへへりききり太たい音おん小こ弟てい既すで

小唐僧せうたうそう徒とを捉とまりとと呼よりしるに金きん角かく動うごけ出くに是こゝを見ぬ。是こゝに唐たう僧そうとと汝に和わ尚しやうかりとと之の肝かん心しんの孫そん行ぎやう者者我われ捉とまりしるに唐たう僧そうを吃くひしとと難なんむと銀ぎん角かく呵かとと之の大王だいわう過あ念ねんしる。多おほ子し那な孫そん行ぎやう者者小こ弟てい三さん坐ざの神かみ山さんを以もつてと壓おさたれしる。今いま我われ々々行ぎやう小こ及およぶとす。只ただ兩りゆう個こ乃すなはち小こ弟てい小こ命めいはは大王だいわうの二ふた件けんの宝たから貝かいを持持もせしりと装まきしりと之の金きん角かく是こゝに成なりまりとと大だい小こ悦えつひし即すなはち小こ紫むら金こん紅こう葫こ芦ろ羊やう脂じ王わう淨じやう瓶びんとと二ふた個こ乃すなはち宝たから貝かいを取取とりし。精せい細さい鬼き伶れい俐れい虫ちゆうしり又また二ふた人にん乃すなはち小こ奴ぬを呼呼よぶに汝に水みづ北きた宝たから貝かいを持持もつに高たか山さん小こ受う留りゆうとと胡こ芦ろ淨じやう瓶びん乃すなはち二ふた件けん底そこを天あまの口くちを地ち小こ向むかひし孫そん行ぎやう者者とと呼よぶに他た答こたへなかり即すなはち他たを装装まきしりと並ならびと早はや々々持も持も同どうきし我われ又また太たい上じやう老らう君きん奉ほう勅てつ急いそ々々如に律りつ令れい乃すなはち帖てつ兒にを貼はりし時とき他たが身み体たい二ふた三さん刺さ乃すなはち同どう小こ代だいしる血ち水みづと成なりまりとと宝たから貝かいをとりし之を二ふた怪かい命めいを受受うけしりと出い行ぎやう之を金きん角かくとと銀ぎん角かく小こ令れいとと三さん

截師弟を細縛させ高く師下の上を拘れたる。叔母孫行者三山の
 為小塵倒され神通變化も力究まり涙乃下ろし雨乃下ろし悲しや
 我師又昔日雨畏山ふも吾を救ひのひりも徒弟とかりも法味を
 授らる。吾又常小馬前小有く妖を驅る路を用た師又を保護
 西天小行も小正果をほくる。妖針小維りかりも。此処ふりも
 障乃も小山をりも。塵殺され師徒是まぐの千辛万苦遂り
 画餅とかりも。八噫呼天ウ抑又命も。声を上り叫れも。其声直小
 天上小ぼん衆神を致駕しるも。衆神此処小降臨し中も護法掲
 締三山成る。孩も曰。此山是誰が管も。所を土地山神出も曰。此山
 則ち小神ホウ管理も。山あも。護法掲締叱も曰。汝亦好牙成も。并
 つも山成妖怪小借あも。何ぞ他を塵殺さんとせも。此塵まも者も

誰しかりも。是夜天大聖孫悟空なり。今正果小飯も。唐僧ウ徒弟と
 かり西天小行も。経をもも。汝亦早く山成把も。他成救も。土地山神
 大い小恐怖し。急小咒語を念動山成も。本乃処も。回せも。行者急小跳
 りも。金箍棒を掣出も。土地山神小奇も。土地山神頭をよも
 種々小陪礼も。も。処小山も。四も。段光焰も。煙死も。小
 あり行者土地山神小問も曰。汝久く此所小あれを妖怪がも。知も
 今彼処より光成放も。何物も。又妖怪が友も。何も。乃人をも。且好
 める物も。何かも。速小告かも。罪を宥も。土地山神も曰。今彼光成放も
 妖怪が持所乃宝貝紫金紅葫芦羊脂玉淨瓶乃两件かも。又他も。及も
 ちも。八仙術をたも。道人好も。物小仙家乃母尊かり。行者定も。無神
 を飯も。身を妻も。一人乃道人となり。光を目的小行也。精細也。伶俐



悟空
見平頂
山於寶貝
光暉

虫乃二枚出きり行者を刀を怪と道士六何方よりきこれると同行者答て
 吾ハ蓬萊山よりきこる今日此山ふきり一人の好人ハ仙術を傳へんとす
 汝ホモ何国へ行ど精細鬼が曰我徒ハ此山中蓮花洞の小仙今大王の命
 を受て山下のり唐僧の徒弟孫行者が捉ふ行いかん行者はまて曰
 那孫行者ハ神通廣大なりとすつるふ汝ホ二人かかろ奈何ぞ捉はん伶
 俐虫もつて曰汝道士其一を知り其二をさす我弟二乃大王三座の大
 山をりて他を歴たれん故に我徒ハ命一ニ件の宝貝をりつて他を
 装て収りて何ぞ他ハ神通を思ふんや行者又問て曰其宝貝如何ふ
 る物あり何やふりて人を装や伶俐虫則ち葫芦浄瓶の人を装由未
 又封て人を血水とさるる委く説くを行者心小孩たかく笑て
 曰汝の宝貝好とりておまが稀罕とさるるふりて吾ハ一個の宝貝あり

人を装てれ小能ふあずと暗ハ一根の毫毛を抜とり長さ一尺七寸
 許の葫芦と斐ト腰間よりとり出とて見せむ二妖是れ月々云々るを
 師父の宝貝も如何なる奇特のいや行者曰我此葫芦天を装の妖有
 二妖談ぬて曰暗てくハ是れ詐少ハ只むや行者笑て曰我何を詐をりふ
 づに疑ハなむ眼前小装てり足手解し伶俐虫精細鬼が袖を引り側小
 思た商量して云今此天を装葫芦と我人をりる葫芦と他ふりて
 換たが是莫大の利なむ汝如何かりや精細鬼曰是甚ハ大利
 かねも他必ず承引も伶俐虫曰他かり承引せむとバ又此玉浄瓶を
 合を行者少す暗ふりて二小換るをれ他一定喜が換へてと家も小請
 則ち換つるはとて天を装吾と人を装吾と品をけりて取換る理有

へや。汝其淨瓶を添を我於方への換あれ。換つらふは二妹が曰。我々
 元来如此を欲せぬ。只師又の葫芦天戒装束の名戒受く其美を足
 二ハ恐るなり。行者曰。さうむ我目前小天戒装束は足す。一と捨念
 咒語をとなし。暗に日遊神を呼ぶ。曰。汝今我より小玉帝を奏せよ。我唐
 僧を技け西天より経をくく。こもる如ふ。此平頂山に妖怪あり。二
 件の宝貝を。一と行路を妨ぐ。依て我一計を殺す。他は二件の宝貝を
 奪つて。願くも真武君の皂旗を以て南天門より一度展き。日月
 星辰を困し。須臾六合を闇となす。我其をりつて天を装束すと欺
 た。妖怪の宝貝をくく。師又が難を救ふ。日遊神是は統領掌し。悟
 空が頼のかりむ。たを奏し。小玉帝是を救し。其手當を命し。日
 遊神の行者が耳根を下り。斯と報むる。行者斜に。行者斜に。

二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ
 天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。

二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ
 天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。

二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ
 天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。

二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ
 天を装束と。眼を定め。よく。二妹小向ひ。今そ天を装束と。眼を定め。よく。



悟空閣
白昼
奪二個
寶貝



悟空

いへと葫芦と淨瓶を行者小僧にせむ。行者ハ假物を二女小授け。身を跳
しう雲端小龍上。二妹う句當を付ひたり

魔頭巧筆困心猿 大聖騰那騙寶貝

斯く兩個の小怪悟空ハ假葫芦をばく甚うご悦び互ふ手ふたりと是
を見たり分伶俐虫頭を廻しう那道士をんふ忽ち形をん失ひ
大つ小細鬼。怎麼う他辭せむと去りや。精細鬼ハ發丸。其由二道令
何地行乞。ハ孫行者假小神仙小粧きう。我を埋し寶貝と奪
ひしふハあらう。伶俐虫曰。等我此葫芦をりつて天を装見んと先
行者ハ抛上。天向ハ力小任せし抛上。其伶俐と落
是ハ如何とて千錯万錯をれも装はざ。扱ハ汝うとて孫行者小欺
されしなり。精細鬼曰。不要乱説我ハ小他天を装とれ筈句の兎

辨しうほ小天を装。我汝小うとて装見んと。葫芦を把り口中
兎筈とて扱力小任せし抛上。不旨撲的落きう。兩怪ハ大ハ
慌忙。是ハ弥假物かりとて秘し悟り強を行者手空より力なく
ひ終小葫芦小假。毫毛を把きう。上身ハ収りなれ。兩怪ハ四
手皆空。葫芦をさく失ひ。狼狽やう。木の下草乃裡。扱せ
か刀をさす。兩怪呆々拵々。面をん合せ。我ハ料や。飯をん必ず殺
されかめ。不知見より散大。精細鬼曰。二大王哥とて甚好。我
汝の身上を憑。性命むくりハ助る。先くう。二大王ハ
たのすんと。躑歩し。蓮花泪へうり去。行者是をん又身を要
し。蒼繩とかり。小怪ハ跟小付て。飛行。那二件ハ寶貝。素金
籠棒と等。身小隨。變化。可為大。可為小。斯く行者ハ小妖小使

つねに酒を飲居り。伶俐虫
猪細鬼の二怪坐下小蹲。只管頭を叩た言。とろ成さす。二二日汝
小孫行者を食す。二怪蓋へ。曰。願う。と大王小的。萬千死罪。若
し。我小寶貝をとる。ま。半山小。つ。河小。忽ち蓬萊山より。ま。つ。一個
乃神仙小。遇著。い。他小。一個。乃胡荽。あり。と。天を装。乃。妖。あり。と。我
小。一。因。他小。騙。され。人を装。寶貝。より。天を装。寶貝。十分。乃。徳。と。心。乃。二。件。の
寶貝。と。換。ひ。ひ。早。道。士。成。人。失。ひ。あ。つ。と。胡荽。を。失。ひ。ひ。乃。望。大。王
大。慈。悲。を。と。れ。小。的。小。が。罪。を。恕。し。と。頭。を。も。つ。地。を。叩。た。謝。し。と。れ。は
金。角。銀。角。暴。雷。乃。と。嚙。た。罷。了。々。是。孫。行。者。神。仙。小。假。き。と。り。と
汝。小。を。欺。た。と。り。乃。那。猴。頭。如。何。と。山。を。抜。我。寶。貝。を。騙。し。捨。つ。と。り。と
く。他。を。今。等。づ。れ。宝。貝。控。三。件。あり。七。星。劍。芭。蕉。扇。ハ。身。辺。ハ。あり。又。一。條。の

提金繩。八。歷。龜。山。歷。龜。洞。の。老。母。乃。所。小。あり。今。小。的。を。老。母。の。方。使。
唐。僧。乃。肉。を。吃。せ。と。り。せ。他。が。提。金。繩。を。帶。し。ま。と。せ。孫。行。者。我。提。へ
と。商。議。し。巴。山。虎。倚。海。竜。と。り。小。怪。を。呼。ぶ。と。り。命。し。た。れ。と。二。怪。命。を。受
く。ま。り。去。行。者。一。明。白。小。史。乃。翅。を。開。た。飛。去。又。妻。と。り。一。個。の。小。怪。と。成
ま。つ。と。巴。山。虎。と。り。道。を。急。た。巴。山。虎。乃。過。行。者。巴。山。虎。小。同。曰。
や。と。何。程。乃。道。あ。る。や。倚。海。竜。手。指。曰。鳥。林。此。裡。乃。行。者。是。之。を。言
く。鉄。棒。を。取。り。忽。倚。海。竜。巴。山。虎。を。殺。し。一。根。乃。毫。毛。成。抜
妻。と。り。巴。山。虎。と。り。我。身。又。妻。と。り。倚。海。竜。と。り。鳥。林。小。鬼。今。と
る。小。雨。扇。乃。石。門。あり。半。門。を。掩。ひ。一。個。乃。女。奴。停。ま。り。行。者。を。見。向
く。曰。汝。巴。那。里。より。ま。り。と。り。行。者。を。見。我。蓮。花。洞。より。使。小。ま。り
ま。り。女。奴。就。ち。行。者。を。引。く。三。層。乃。門。を。進。へ。行。者。暗。と。堂。中。と。見



西遊記三卷之二



悟空殺

倚海龍

巴山虎

悟空

西遊記三卷之二

まゝ二個の老媽々坐し居り。行者急小礼を力せ。那妖回く汝を
是誰か。行者答く曰。小怪ハ蓮花洞の小的なり。大王奶々を請て
唐僧の肉を進らんとする。願くハきこせ。又那唐僧の徒弟孫
行者を捉へん。と。梶金繩を帶きこせ。命令あつて。中
々。老怪ハ小悦ハ女怪を呼。一頂の香藤轎を拾き。廿月洞
坐を坐し集る。二二人の轎杖撞着。行り既ハ五六里小及ひて。轎
夫亦轎をくれ。須臾息をせむ。行者忽ち鉄
棒を出し。轎夫を亦殺め。其物音小驚た。那老怪轎より頭を
さし出。處を行者。二棒小歩死。轎より惹出し。是成刀。是
九尾の狐なり。行者梶金繩を搜し出。袖の裡ハ収。二根の毫毛
を抜。巴山虎倚海竜。又二根の毫毛を抜。二個の

轎夫と。己ハ變。老奶々となり。轎の裡ハ有。拾起させ。不交時
蓮花洞へ。把門の小怪ハ斯と報。金角銀角洞を出。
洞中迎。行者を南面小坐せ。二大を。大小の群妖跪。敬す
行者曰。兒們。我を請き。何の幹ある。大頭曰。母親を請。別
妻。今早唐僧を撃。依。母親を請。日。他。因。
吃。延壽の酒宴を促。中。結。終。處。小。那。孫。行。
る。巡山の小妖。報。曰。大王。小。那。孫。行。
者。奶々を。己。小。油。金。角。銀。角。
大。仰。天。一。洞。景。透。を。窺。行。者。本。相。を。現。小。跳。上。逃。走。
る。銀。角。金。角。小。向。以。哥。心。成。安。一。小。弟。他。と。交。戰。合。手。ま。ん。と。
空。劍。を。提。門。外。小。ま。り。出。高。呼。曰。孫。行。者。早。く。我。空。貝。と。母。親。と。還。

百卷目三編卷二 二二

我々唐僧師徒を饒一返さん。汝早く紐をとり去。行者中より罵り曰
 潑奴怪偽言を吐く。我何ぞ信ぞん。見よ。傾く。汝兄弟を二棍り。歩
 殺。師又を救出。と。銀角大い怒。雲中小跳。空を論。破
 行者も鉄棍を擧。相逐。半空の中。在。戦。二。十。余。合。未
 と。勝負を合。行者心焦燥。那。棍。金。繩。を。把。り。刺。刺。銀。角。小。技
 々々。銀。角。元。来。一。個。の。緊。繩。兎。あり。又。一。個。の。鬆。繩。兎。あり。若。他。人。身。の。ま
 を。縛。り。付。と。鬆。繩。兎。を。念。ふ。已。他。人。を。縛。り。付。と。緊。繩。兎。を。念。ふ。今。行。者
 投。け。付。繩。を。足。く。已。が。宝。貝。の。棍。金。繩。か。多。を。知。急。小。鬆。繩。兎。を。念。ふ
 繩。を。脱。し。却。行。者。を。望。み。抛。け。緊。繩。兎。を。念。ふ。さ。の。行。者。も
 鬆。繩。兎。を。あ。ら。ま。れ。を。此。繩。を。脱。し。能。き。さ。か。ら。金。園。子。小。う。ま。れ
 更。小。働。た。む。銀。角。傾。く。繩。を。曳。く。洞。中。小。う。大。音。小。長。

轉夫とて己ハ妻とて老奴とてたり。驕り裡に有る。抬起させ不交時
 蓮花洞へ入りぬ。把門の小怪。斯く報。これ。金。角。銀。角。洞。を。出。く
 洞中。迎。入。行。者。を。南。面。に。坐。せ。し。も。二。人。を。う。ち。大。小。の。群。妖。跪。き。尊。敬。す
 行者曰。兒。們。我。を。請。き。し。何。の。幹。り。あ。ら。大。頭。白。母。親。を。請。き。し。別
 妻。を。守。今。早。唐。僧。を。撃。つ。り。依。り。母。親。を。請。き。し。何。の。因。り
 吃。い。延。壽。の。酒。宴。を。促。さん。と。申。ひ。い。と。結。末。終。つ。さ。ら。外。小。忽。ち。人
 ろ。迦。山。の。小。妖。還。り。き。り。報。く。曰。大。王。禍。を。く。小。う。ま。り。那。孫。行
 者。切。々。を。歩。殺。し。己。切。々。小。難。く。き。り。い。と。油。斷。し。も。金。角。銀。角
 大。り。仰。天。一。惆。景。さ。透。を。窺。ひ。行。者。本。柄。を。現。し。雲。小。跳。上。く。逃。之
 る。銀。角。金。角。小。向。以。哥。心。成。安。ん。小。弟。他。と。交。戦。拿。ま。し。ん。と。て
 空。劍。を。提。門。外。に。出。高。く。呼。び。曰。孫。行。者。早。く。我。宝。貝。と。母。親。を。還

我々唐僧師徒を饒一返きん。汝早く経をとり去り行者を罵り罵り曰
 潑汝怪偽言を吐くも我何ぞ信ぞん。んよ傾き汝兄弟を一棍り杵
 殺し師又を救出せよ。銀角大り怒り雲中小跳しを宝剣を論し破
 けり。行者も鉄棍を掣り相迎へ半空の中在り戦ふ。二十余合未
 ど勝負を分せず。行者心焦燥那提金繩を把りし。刷刺銀角も投
 けり。銀角元来一個の緊繩咒あり。又一個の鬆繩咒あり。若他人の
 を縛る時は鬆繩咒を念す。已他人を縛る時は緊繩咒を念す。今行者
 を縛りけり繩を断るに己が寶貝の提金繩か多を知急し鬆繩咒を念す
 繩を脱しけり。却り行者を望み抛り緊繩咒を念す。さるの行者も
 鬆繩咒を念す。此繩を脱しけり能くさるる金圈子よりさる
 けり。更し働死にぞ。銀角傾き繩を曳り洞中小より大音の長尺

我孫行者成拿きしれりと呼ぶゆ。金角是成乃大の小悦び。銀角功
 を賞し。小怪們も付行者を細め他が懐中成搜し胡芦淨瓶の二
 件を取返す。兄弟後回小へ飲酒と。行者柱小般系をれ這回り居る
 が監怪乃立去を乃身を消し。圈子成ぬけ。毫毛成抜く。變どく己が
 形とけり。柱小般系だ。本身も衰へ。小怪となり後面小へ曰。那孫行者
 柱小般系をけり。頻小爬踏いむ。終小那提金繩を磨切い下。一條の粗
 壯なる繩と細換いん。とやれ。金角はく。腰間より一條の御堂
 帯を解り。行者小あ。行者是を結り去り。假行者を細り。寶貝
 乃繩ハ袖内小。一棍の毫毛を抜く。衰へ。提金繩。く。金角
 小あ。金角是を假物と。諸取り。収む。行者ハ急し。身を縛り
 けり。門外小き。出本相を頭へ高し。呼ぶ。曰。者行孫き。潑怪

悟空ごくう
戰大せんたい
與銀ぎんぐ
角大王かくだいおう



出よ小怪せらるれ急小走り。新と報ドるバ。金角大子。孫
 行者を合手へ柱小細。おれ々々。又者行孫とい者き。れま如何銀角
 曰長兄。放心。まふ。我這葫芦をり。他を装き。り。ん。と。那紫
 金紅葫芦を携へ。走り出。く。曰。汝は何者ぞ。行者曰。我は孫行
 者。舎弟者。行孫なり。汝我家兄を合手。故。小。仇を報せん。為。き。れ
 曰。銀角曰。汝き。く。仇を報。と。我。汝と。戦。り。能。か。我。只。汝を。一。声。呼
 ぶ。小。女。と。應。ん。や。行者曰。我。何。と。答。さ。ん。銀角悦。び。空中。跳。上。り。葫
 芦。を。と。り。見。朝。天。見。朝。地。者。行。孫。と。云。行者。敢。て。應。む。銀角。二。声
 曰。行者。心中。小。お。り。や。我。真。の。名。孫。行者。なり。今。者。行。孫。ハ。鬼。名。を
 き。他。小。應。む。る。も。何。乃。妨。あ。ん。と。思。惟。一。忍。不。住。一。声。應。む。ん。バ
 忽。ち。吸。ま。さ。葫。芦。乃。中。へ。装。入。ま。さ。る。銀角。は。く。貼。上。帖。見。れ。此。宝

元來名字乃真假。不。管。中。を。言。ふ。心。有。く。就。ち。装。入。る。不。倒。乃
 寶貝。なり。何。小。行者。葫。芦。乃。裡。小。装。入。る。眼。を。ひ。り。死。ん。小。烏。黒。小。一
 物。を。守。る。も。大。膽。不。敵。乃。行者。此。由。恐。む。手。中。小。お。り。や。我。五
 百年前。老。君。我。を。八。卦。炉。中。小。煉。成。も。我。銅。頭。鉄。背。火。回。金。睛。遂
 小。免。る。も。死。ほ。り。他。が。此。葫。芦。一。回。三。刺。と。凡。人。を。化。し。血。水。と。し。も
 我。を。化。し。も。能。か。他。が。封。を。用。く。を。待。て。走。去。ん。と。心。を。定。め。る。何。り
 銀角。葫。芦。を。携。へ。洞。中。へ。り。金角。小。謂。小。弟。既。小。者。行。孫。と。葫。芦
 乃。中。へ。装。ま。さ。り。云。金角。大。不。悦。び。賢。弟。手。中。動。き。守。合。手。ま。さ。る。勇。ま
 一。早。く。他。を。化。し。盡。く。血。水。と。り。揭。開。帖。見。銀角。領。掌。一。捻。訣
 念。咒。腰。骨。を。化。し。了。早。連。腰。骨。を。化。し。り。小。金。用。喜。び
 今。八。開。帖。て。見。よ。令。と。行者。是。成。は。く。就。ち。毫。毛。を。抜。く。半。截。身。と

なり真乃身八変下く蟻蜂虫となり。胡芦乃口かふしより銀角が封
 を開く。乃ち同行者早く飛出く。又身を變へ小怪となり。傍小座を
 金角胡芦を開た。乃ち小半截身あり。依りてのどく貼上く。曰。既小
 半截身小成り。乃ち小悉く化盡し。乃ち胡芦を小
 怪ふり。乃ち兄弟悦び。乃ち飲宴をなす。豈とらんや。此小怪は是孫行者
 なり。と。八行者ハ胡芦を捧居り。乃ち隙を規ひ。毫毛も抜變じ。胡芦
 とかり。滅乃ち胡芦ハ懐中にと。金角是をさす。稍醉を盡し。乃ち假
 胡芦を把り。席上ふを。後銀角と終話すと。行者ハ潜小舌を吐く
 門外へ走り出たり。

外道施威敷正性

心猿獲宝伏邪魔

却説行者ハ宝貝を編り。捨り。門外小溜出。本相を現し。声を厉して

渡怪出。叫ぶ。小怪。乃ちれま出く。汝は何人ぞ。同行者が曰。これハ
 是前小老怪小捉られ。孫行者者。行孫ハ弟行者。孫是なり。小怪
 此首を大頭小報。と。金角大ハ孩た。先小孫行者を捉。再び者。行孫と
 胡芦小装。乃ち今又行者孫と。乃ち者。賢弟此ハハ奈何ある。謀
 を以て。敵小推し。銀角が曰。長兄放心。乃ち我此胡芦。乃ち千人を
 装。何ぞ行者孫を恐まん。我出く。一發小装。乃ち大言を。假胡芦
 をと。乃ち走り出高。呼く。曰。汝行者孫。喧く。喝を止よ。我と汝と
 相ち。小及む。但我汝を。一声呼ん。汝敢て。應へんや。否や。行者笑。曰。汝我
 を呼む。何ぞ。應へん。我又汝を呼む。乃ち應へんや。銀角嘲。乃ち我汝を
 呼ふ。二個。乃ち胡芦あり。乃ち人を装。乃ち汝又我を呼。何れ。乃ち行
 者曰。我ハ一個。乃ち胡芦あり。先滅小汝我を呼。銀角大ハ悦。乃ち身を跳

一々空中小飛上り假胡芦をとりて一声行者孫と呼行者是をきいて
 連色小八九声應ふれども敢て装束を能く守銀角仰承りて忽ち雲中
 一り大地へ墜脚を跌りて曰天世情を變じて恐るるハ汝が胡芦も敢て装
 束不能行者が曰汝先胡芦を収め我論到らんを汝を呼んて急小
 筋斗雲小跳上り胡芦を以て底兒朝天兒朝地一声高く銀角大王
 と呼銀角声小應りて一声應る小忽ち装束を胡芦の裡へ吸入る。行
 者早く貼上りて急々如律令と帖子雲端を下りて連花洞口小到
 り胡芦を揮廻り勇小勇々々響曰我一深く銀角を合手とりて汝亦
 早く師父をこりて罪を謝せんとハ塵芥せん小怪大々恐怖して遠
 々金角の前ふりて大王禍ひ既ふりて那行者孫銀角大王を胡
 芦の内小袈衣きりて報じ金角亦あかど地小跌倒声を放つて大

小兎名ハ洞裡の群妖も一存小病哭せり又小怪落きり。行者孫已小
 洞門然歩破り進みきりて金角大々小強死急小芭蕉扇をとつて
 後小挿り七星劍を提り跳出汝潑猴我弟を害と誓ひ汝が肉を以
 て弟乃靈を祭むとむ不止行者嘲りて此潑怪む言を止り早
 く我師父を返せせしが汝が拘命を饒さん。金角大々小怒りて七星劍を振
 りて切くる。行者金杖提棒を提り戦ふ。二十余回いへり勝つ。行者
 小切りて小數百乃群妖金角を杖り八方より行者小切りて行者ア
 一由恐るす身外身乃法をつらひ一把の毛を抜とり口小念ふ吹出せ
 無數の行者とかり群り小怪を歩散ると風乃雲を拂がり金角是
 を見る急小芭蕉扇を取南方丙丁乃位小向り煽む只見地上面の
 火光とかり煽々と煽上り元来此扇平地を一度煽を忽ち火を出し



悟空



揮火
扇金
角燒
悟空

金角

きく。是天上の火のく一點の靈光大なり。金角機小乗し七八丁
 撮ハ列々々々焰飛渡里。大地を焦と行者此悪小焼とられ大
 孩た急小毫毛をとく身小収め只一條の毛た以て假小我像とな
 しく火中のみた。本身小舂斗雲小跳駕運小蓮花洞小至り鉄棒を
 廻し小怪を踏み手拏殺し後面小走り今三藏師徒を尋る此小
 机小羊脂玉浄瓶の右をカク急小とく袖中へ此同く金角
 洞中へ入りき行行者師父を尋る隙なく。身を變小く小怪となり
 金角を乃々胸をさく痛哭し。大王回りも何ぞ遅た。則小行者孫
 きくく大小の群妖もく他が為小殺されりと云金角のとりを
 乃れ血流く河乃く屍地小充滿く。金角舌を放く大小哭大地小
 跌倒る。行者是を扶く洞の裡へいれど。金角大死小身跡疲ま

案上小伏く昏々と眠り。行者傍小在く他呼々て熟睡する。行
 ひ暗小芭蕉扇を抜く。身を返しく進れま。金角足音小改馬た
 勝を覚し。行者が芭蕉扇を擡去を乃々大小怒り剣をとり追
 きぐる。行者も是を乃々扇子を腰小挿く鉄棒を回く金角と戦
 る三十余回金角抵敵く不能。西南をさく逃まきり。歴々洞へ
 遁ま入。行者長追せ守頭を回く蓮花洞へ入り終小師父沙和尚を探
 り上り解下し。八戒を池水の中より杖上く挽合る限なく素衣を
 綱へ師徒四人飽く食ひ其夜洞裡小安附し。斯く金角ハ歴々洞
 小在く亦幾されり小怪を呼集へ再度妖兵を調く蓮花洞へ寄ま
 行者斯くさく沙僧小師父を尋る自身ハ八戒と俱小門外小出て
 を送く金角が先強執阿七し又怪陣頭小出高言小罵く曰汝此

濃猴濃まうまう吾わが金角大王金角大王小こ无れい礼れいす早はやく頭あたまを伸のけつけつ八は戒かいをれば
 為な躰たをんふふ玉たま面めん長なが髻げ銅どう眉まゆ刀やいば耳みみゆく手て小こ方ほう天てん戟げきをとりり八
 戒かい一いつ言ごんのん回かい各かくゆめ及およびび手て鉈たを制手て一いつ声せい叫けうびび擡たいくくゆめ兩りゆう人にん戦せんつつ十
 四し五ご回かいつつここ雌し雄ゆうを分けけここゆめ金きん角かく群ぐん妖ようを下知ちくく一いつ声せい小こ擡たいここ掛
 ららししむむ行ぎやう者しやゆゆ金きん箍こ棒ぼうを揮くく八は戒かいを杖けけ六む軍ぐん小こ相あ當あるる沙さ悟ご淨
 洞どう中ちゆうよりより是こゝをもつつ三さん藏ざうを深くくめめ一いつ聲せい空くう杖じやうを回ししくく横よこ合あより
 群ぐん妖ようを歩退たいくくゆめ六む軍ぐん沙さ和わ尚しやう小こ不ふ意いをうれれ利りを失ひひくくゆめ
 走そうれれ六む孤こ阿あ七しち敵てきを振捨すてくく引ひ退たいくくを八戒かい追おひひけけくく鉈た引ひけけ
 引ひ倒たししくくおお殺ころすすよりよりくくゆめ是こゝ一いつ頭あたまのの孤こ猱だうゆゆを有るる金きん角かく遠えん小
 孤こ阿あ七しちがが討うちちままをなぐぐ急きゆう小ことと返かへしし八は戒かい小こああくくゆめ沙さ和わ尚しやうゆゆ
 小このの宝たから杖じやうを揚ぐぐ八は戒かいを杖けけ一いつ徑けい一いつ来らいくく挑てうとと戦せんここ此こゝ同どう行ぎやう者しや

上かみ小こ跳とりありり淨じやう瓶びんを解下くだししくく一いつ声せい金きん角かく大だい王わうとと呼よぶぶ金きん角かく是こゝを我小こ怪
 のの平へいととくく心こゝろにに頭あたまを回ししくく二ふた声せい應おこまま忽たちちち吸ひききくく淨じやう瓶びんのの内うちゆゆかり
 けけられれぬぬ行ぎやう者しや急きゆう小こ貼は上じやうを帖子し他たががよりより落おちちしし七しち星せい劍けんを拾ひひり
 邪よこしま小こを拂ひひぬぬくく洞どう中ちゆうへへ引ひ返かへしし三さん藏ざう小このの始はじめ末まを結りりたたれれ六む大だい小
 小このの其その功こうを賞しし早はや夜やを吃くく早はやくく西さい天てん小こ行ぎやうんんとと立たちちままるる洞どう小こ空くう
 中ちゆう小こ人にん有ありり孫そん行ぎやう者しや小こ宝たから貝かいを還せせしし行ぎやう者しや空くう中ちゆうへへ引ひりり上ありり
 是こゝをなんんゆゆ是こゝ本ほん老らう君きんなりり行ぎやう者しや其その由よし然しかるる老らう君きんがが曰いふふ邪よこしま葫こ芦ろを我
 丹たんを盛るる宝たから貝かい淨じやう瓶びんハハ我わが水みづを裳のの宝たから貝かい宝たから劍けんを廣を煉宝たから貝かい扇せんハ
 大だいを揃のの宝たから貝かい親おん金きん繩じゆハハ我わが勒りやく袍ほう帶たいなりり邪よこしま兩りゆう怪かい一いつ個このの金きん炉ろ童どう子し
 一いつ個このの銀ぎん炉ろ童どう子しなりり他た我わが宝たから貝かいを偷てて下か界かいへへ逃にげまましし所ところ在あるるを知ららずず
 小こ不ふ期きゆゆ今いま汝なんぢ小こ拿とらられれりり行ぎやう者しや叱ちりり曰いふふ汝なんぢ這こゝ老らう官くわん兒に從したがひひ家か童どう子しを

故^{ナリ}。吾師^ニ又^シ小害^ヲを^レた^シせ^テ経^ヲを^レも^リの^レ邪^ヲを^レ守^ル。厭^方小汝^小あや^こ
 老君^曰。是^レを^レ我^預る^ル処^小あ^や。汝^ガ師^徒ナ^リ。難^小逢^ナ。此^レ
 難^小逢^ナ。正^果小^レ。難^小。行者^度初^レ。然^五件^ノ宝^貝
 を^レ老^君返^ス。老^君葫^芦淨^瓶の^口を^レ開^ク。兩^股の^口仙^氣を^レ出^ス
 一指^を入^ル。化^ス。二^重子^トカ^リ。行者^小別^ク。天^宮を^レ去^リ。

池清

繪本西遊記二卷之二畢

池清

